

## 〔②学校生活編〕

### 6. アドレナリン自己注射薬（エピペン®）を所持している児童生徒等への対応

#### 1. 日頃から留意すべき事項

- ・児童生徒等の健康状態や既往歴、学校における配慮や管理を必要とするかどうかの把握に努める。
- ・配慮や管理を必要とする場合は、保護者や主治医と連携をとり、教職員間で共通理解をはかる。
- ・緊急時に備え、個別の支援計画を作成し、校内の危機管理体制づくりや環境整備を行う。
- ・学校医と連携し、校内研修を行う等、必要に応じ、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の指導・助言を受ける。
- ・保護者の同意を得て、消防局への情報提供カードを作成する。

#### 2. 緊急対応のポイント

##### ＜具体的事例＞

アナフィラキシーショックの既往があり、アドレナリン自己注射薬（以下、エピペン®）を所持している生徒が昼食後、腹痛と嘔吐の症状を訴え、保健室に来室した。



##### 担任・養護教諭等の対応

- ・養護教諭は、症状の観察、緊急性の判断を行う。
- ・緊急性が高いアレルギー症状がある場合は、管理職・その他の教職員と協力し、エピペン®の使用、救急車の要請、心肺蘇生や AED の使用、保護者への連絡、主治医・緊急医療機関への連絡を行う。



##### 管理職の対応

- ・教職員への対応の指示・判断を行う。
- ・学校保健体育課に状況を報告する。

#### 3. 事後の対応

- ・必要に応じ、当該生徒や他の生徒に対してアレルギーに関する正しい知識、健康管理に関する注意事項等について指導を行う。
- ・発生状況によっては、独立行政法人日本スポーツ振興センターへの災害共済給付請求の申請を検討する。
- ・校内の危機管理体制や対応についての評価を行う。

#### 参考資料

「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（令和 2 年 3 月（財）日本学校保健会）

「学校給食における食物アレルギー対応指針」（平成 27 年 3 月文部科学省）

「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」（令和 4 年 3 月大阪府教育委員会）

「学校の管理下における食物アレルギーへの対応」資料（SSA 学校管理部 学校給食課 配布文書・データ）